



JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center

8

No.459

August 2022

■ 巻頭言

病院薬剤師のこれからを考える

一般社団法人 日本病院薬剤師会 会長 武田 泰生 2

■ インフォメーション

医薬品集発刊! 5

JAPIC「医療用医薬品集 2023」CD-ROM付 9月初旬発刊

JAPIC「一般用医薬品集 2023」 9月初旬発刊

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2023」 8月発刊

7月末発売! 6

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版 2022年7月版」

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2022年7月版」

■ トピックス

「理事会」「評議員会」の概要報告 7

《開催予告》「第49回・2022年度GMP事例研究会」について 8

■ コラム

くすりの散歩道No.147「赤チン」

(一財)日本医薬情報センター 事務局 渉外担当 小山 政子 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) 10

■ 図書館だより No.385 11

■ 情報提供一覧 11

50
TH
ANNIVERSARY

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

病院薬剤師のこれからを考える

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長

武田 泰生 *Takeda Yasuo*



はじめに

木平健治前会長の後を受け、日本病院薬剤師会（日病薬）の第16代会長を拝命しました武田泰生でございます。微力ながら全力でその重責を果たし、薬剤師の職能の更なる向上とシームレスな薬物治療管理体制の構築に向けて尽力する所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。日本医薬情報センター（JAPIC）におかれましては、日頃から医薬情報の総合的収集ならびに分析・評価、そして有益な情報をご提供いただいておりますことに感謝申し上げます。また、常に最新のデータベース情報を構築・維持していただき、日々の薬剤業務の中で有効に活用させていただいておりますことに、日病薬として心から御礼を申し上げます。

さて、日本の医療はいま大きく変わろうとしています。2013年にスタートした「社会保障・税一体改革」は少子高齢化が進む日本の将来の様々な課題に対応すべく新たな医療・介護提供体制の構築を目的とした待ったなしの改革です。具体的には、将来の人口動態や社会情勢の変化を見据えて、「病院機能の分化と連携」、「地域包括ケアシステムの構築」を両輪とした地域医療構想であり、地域の特性に合わせて地域ごとに2025年の完成を目指して取組まれています。このような構想が急ピッチで進む改革のさなか、我々、病院薬剤師に期待される未来のあるべき姿について厚生労働省（厚労省）が主催の「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」が開催されました。本稿では検討会のとりまとめの内容と今後の薬剤師のあるべき姿、地域医療における次世代型の薬物治療管理について考えたいと思います。

病院薬剤師業務の現状と課題

1990年に12%であった院外処方箋発行率は、厚労省主導による推進とともに急速に上昇し2020年には75%を超えるまでになりました。これに相まって、2014年に新設された「病棟薬剤業務実施加算」は、病院薬剤師の業務を調剤業務中心から入院患者対応を主とする病棟業務中心へと変化させ、チーム医療における薬物治療管理の要としての役割を発揮することを求められました。2018年のICU等における活動に対する評価の新設、さらに2020年の加算増点は、病院薬剤師の病棟活動が高く評価され病棟業務の充実によるチーム医療への更なる貢献を期待された故の結果と考えられます。このような流れのなかで、2020年に厚労省で企画された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」では、①薬剤師の需給、②薬剤師の資質向上、③今後の薬剤師のあるべき姿の3項目を中心に、今後の薬剤業務と薬剤師職能のあり方について他職種を交えて議論がなされ、昨年の6月に現状の課題とこれからのに向けた提言が取りまとめられました。薬学教育、薬剤業務、薬剤師職能のあり方、資質向上等の多くの懸念事項について将来に向けた建設的な提言が出されております。その中で、我々病院薬剤師に対しては、病棟業務の充実を通してチーム医療への更なる貢献が期待され、そのために対物業務の効率化と対人業務の充実が課題としてあげられました。

日病薬の現状調査ならびに届出受理医療機関名簿を基にした中医協資料によれば、「病棟薬剤業務実施加算」を算定している施設は令和2年度によりやく全体の20%を超えたところで

す。特に、慢性期や療養型等の病床機能を持つ施設と病床規模が小さい施設では算定率が極めて低い状況が見受けられます(図1)。すべての施設で病床規模に見合った薬剤師数を確保し、病床機能に見合う病棟薬剤業務を展開できこそ、地域医療連携としてのシームレスな薬物治療管理が実現できるのではないのでしょうか。

地域におけるシームレスな薬物治療管理の要として

患者さんは、外来通院や在宅診療から、病状に応じて急性期病院等へ入院され、回復期・慢性期を経て、再び外来や在宅診療へと移行されます。その際、対応する医療施設が変わっても、患者の病状変化を的確に把握し、薬剤師が互いに連携して、適切な薬物治療を切れ目なく継続してもらうことを、患者さんは常に期待しているのではないのでしょうか。すなわち、薬剤師が担うべき薬学的管理を医療施設間でシームレスにつなぐ、そのための連携体制を地域で構築することが重要であると考えます。機能的に実践するには、各医療施設の病床機能に応じた適正数の薬剤師確保が必要であり、かつ十分な病棟薬剤業務が展開されていることが重要であると確信しています。先の検討会でも喫緊の課題とし

て挙げられた病院薬剤師の不足や地域偏在の解決策の一つとして、厚労省は地域医療介護総合確保基金を利用した薬剤師の修学資金貸与事業および薬剤師の派遣制度を運用することを提案しました。日病薬は特別委員会を設置し効果的で生産性高い運用の方策についてマニュアル等を早急に策定し都道府県病薬とともに運用していくことを計画しています。

病院薬剤師の職能の拡大と資質向上

地域医療構想において、我々病院薬剤師には病棟薬剤業務の更なる充実に加えて、外来診療や周術期医療への参画、そしてタスクシフト・シェアへの対応などを期待されています。これらの期待に応えるには、薬剤師業務の拡大とそれをしっかりと実践するためのマンパワーと資質の向上が必要です。働き方改革が求められるなか、特に、医師の負担軽減策として導入されたタスクシフト・シェアを積極的に取り入れることは、病院薬剤師の職能の拡大と資質の向上へつながり、多職種協働による医療の質の向上に貢献することが期待されます。

図1

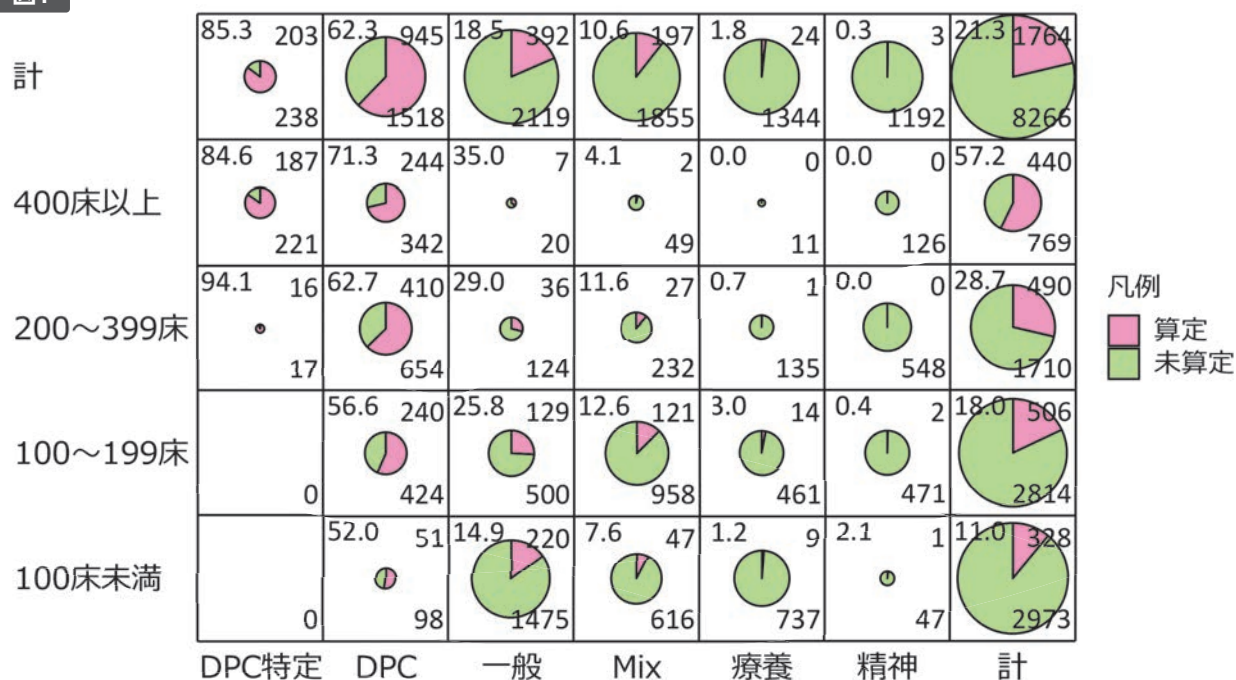


図1. 病院機能別・病床規模別病棟薬剤業務実施加算算定割合

各ボックスにおける数値：右下、対象施設数；右上、加算届出施設数；左上、届出施設数割合。出典：届出受理医療機関名簿 令和2年6月分（地方厚生局）、機能評価係数Ⅱの内訳（医療機関別）令和2年4月1日時点（中協資料）。新潟大学医歯学総合病院 教授・薬剤部長 外山 聡 先生よりご提供

これからの超高齢社会における薬物治療管理を十分に果たすために、病院薬剤師の資質向上を目指して日病薬は2段階の研修制度を創設しています。一つは日病薬病院薬学認定制度で病院薬学という特殊領域においてジェネラリストとしての職能の向上を図る制度です。もう一つは専門領域における認定薬剤師制度です。がん薬物療法、感染制御、精神科対策、妊婦・授乳婦、そしてHIV感染症の5領域を対象に「認定と専門」の2段階ラダーを設けており、高度な専門知識と技能、さらに医師と協働できる資質を習得するための制度設計になっています。

日病薬はこのように高い資質を有する病院薬剤師の育成に尽力するとともに、「チーム医療への更なる貢献」と「地域医療連携への参画」を両輪として、地域におけるシームレスな薬物治療管理を実践できる体制の構築を目指しています(図2)。

おわりに

日病薬は病棟薬剤業務の更なる推進と職能向上のための取組を今後も継続して進めていくとともに、喫緊の課題である薬剤師不足や地域偏在・病床機能別偏在についても全力で取り組んでいきます。このような方向性をもって、日本病院薬剤師会の活動を進めていきたいと考えております。ぜひとも、医学・薬学関連領域でご活躍の皆さまのご協力・ご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

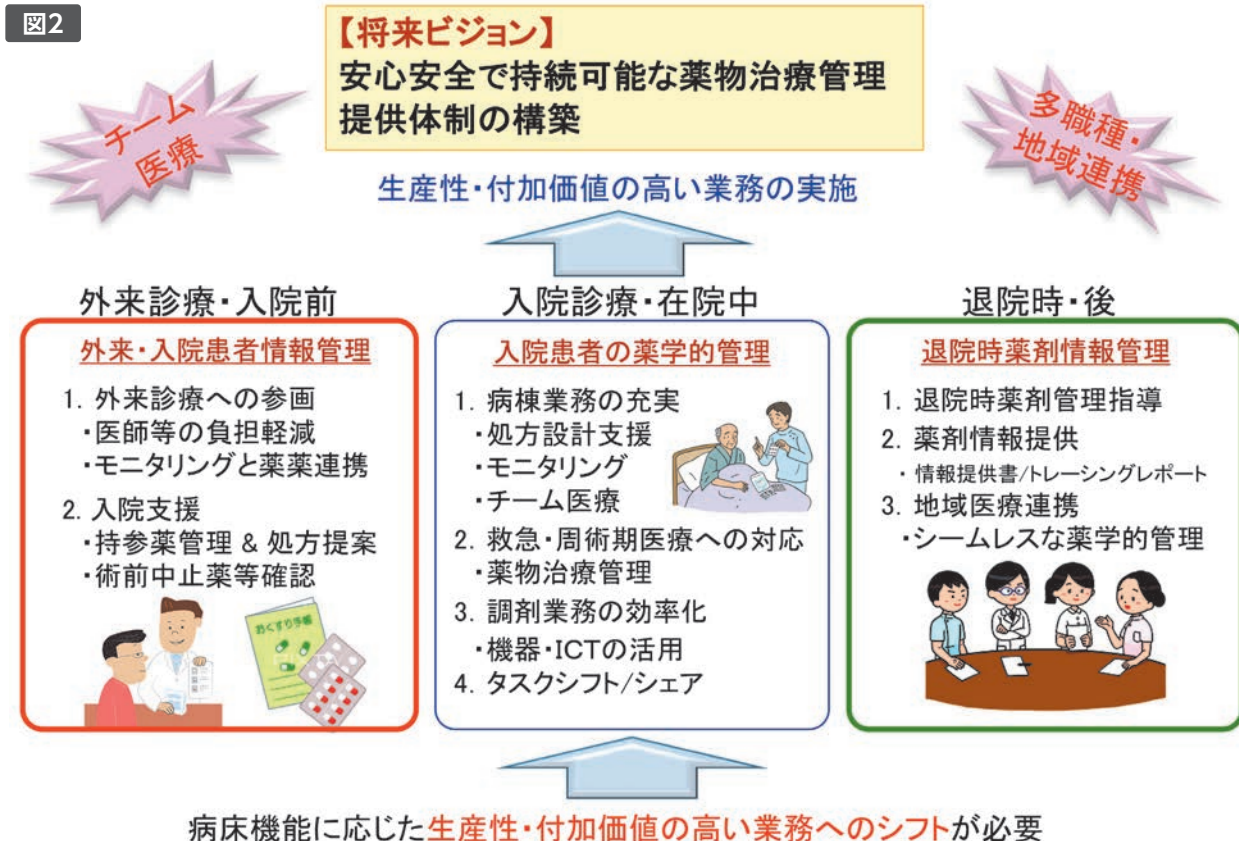


図2. 今後の病院薬剤師業務のあり方(私見)

地域医療構想(病院機能の分化と連携)および地域包括ケア(薬薬・多職種連携)において病院薬剤師が生産性・付加価値の高い業務を実施するために必要なストラクチャー・プロセス。病院薬剤師は「チーム医療への貢献」「多職種・地域連携」を両輪として外来診療、入院診療、地域医療におけるすべての薬物治療管理に責任を持つことが期待されている。

医薬品集発刊!

JAPIC「医療用医薬品集2023」CD-ROM付 9月初旬発刊

◆6月の後発品収載に対応◆

《本書の特長》

- ◇2022年6月の新薬承認、6月の後発品収載分までの医療用医薬品を網羅（約21,000製品）
- ◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分（約2,300成分）ごとにまとめて掲載。
約1,500成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品（またはそれに準じるとされる医薬品）と後発品及び局方品が明確に
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ◇医療用医薬品添付文書情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識別コード情報を収録し、
最新医療用医薬品添付文書へのリンク機能*を搭載した検索性CD-ROM（インストール版）を添付
*インターネットを経由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の添付文書PDFを表示
- ◇本文2分冊+その他（付録、薬剤識別コード）1冊の3分冊を予定

◆価格：14,300円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



JAPIC「一般用医薬品集2023」 9月初旬発刊

《本書の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅（約10,000製品収録）
- ◇「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収録
- ◇付録に重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、リスク区分情報等を収録

◆価格：9,900円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2023」8月発刊

《本書の特長》

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊
- ◇医療用医薬品集掲載の医薬品のうち添付文書に識別コード・包装コードの記載のある品目を掲載
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名（会社名）、一般名、規格単位、
薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列

◆価格：1,100円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



7月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2022年7月版」

◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。

(2022年6月までのJAPIC入手分を収録)

◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。

データ出力形式は、タブ区切り／カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。

◇薬価、先発品等／後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。

◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。

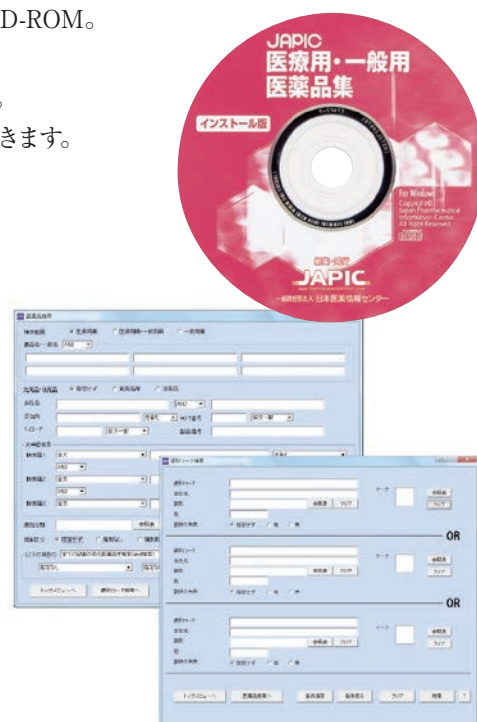
◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

◆価格:単回 14,300円(税込)

年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) 26,186円(税込)

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2022年7月版」

◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報

(2022年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。

◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。

◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。

◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。

◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。

◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。

◆価格:3,300円(税込)

〔年1回発行(次回発行は2023年7月予定)〕

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



「理事会」「評議員会」の概要報告

令和3年度の事業報告及び決算についての理事会及び評議員会を6月2日（木）、6月24日（金）にそれぞれ開催いたしました。
 今回の主な議題でありました事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告し、原案どおり承認・議決されました（議題は以下のとおり）。なお、会員の皆様には、令和3年度事業報告書・決算報告書を先般ご送付いたしました。

また、6月24日（金）の評議員会において理事の異動が承認され、7月14日（木）の理事会（書面による開催）において役付理事等が選定されましたので、以下のとおりお知らせいたします。

○「令和4年度第1回（通算第157回）理事会」 6月2日（木）15:00～16:00, 当センター4階会議室

《議 題》

1. 令和3年度事業報告の承認について
2. 令和3年度決算報告の承認について
3. 公益目的支出計画実施報告の承認について
4. 定時評議員会の招集の決定について
5. 報告事項
 - （1）維持会員の異動について
 - （2）代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「令和4年度第1回（通算第52回）評議員会」 6月24日（金）15:00～15:55, 当センター4階会議室

《議 題》

1. 理事の選任について
2. 令和3年度決算報告の承認について
3. 報告事項
 - （1）令和3年度事業報告について
 - （2）公益目的支出計画実施報告について

○「令和4年度第2回（通算第158回）理事会」 7月14日（木）、書面同意による

《議 題》

1. 代表理事（会長及び理事長）、役付理事及び業務執行理事の選定について
2. 就業規則の改定について

【役員の異動】

《理 事》

退 任：五十嵐 浩（一般財団法人日本医薬情報センター理事（常勤）、事務局長）
 村勢 敏郎（公益財団法人冲中記念成人病研究所 理事）
 新 任：山口 貴久（前 国立医薬品食品衛生研究所 総務部長）

以上 6月24日付（※敬称略）

【役付理事及び常勤役員】

《非常勤》

会 長 村上 貴久
 副会長 猪口 雄二（公益社団法人日本医師会 副会長）
 川上 純一（公益社団法人日本薬剤師会 副会長）

《常 勤》

理事長 赤川 治郎
 理 事 多田 千里
 山口 貴久

以上 7月14日付（※敬称略）

《開催予告》「第49回・2022年度GMP事例研究会」について

日本製薬工業協会（製薬協）品質委員会では、2022年度事業活動の一環として、『医薬品品質保証のグローバル対応と製造業者管理の新展開』をテーマに掲げ、本年も「第49回・2022年度GMP事例研究会」を下記日時のとおり、日本医薬情報センター（JAPIC）と共催することになりました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年同様Webでの開催となります。参加のご案内等詳細につきましては、製薬協ホームページ等にてお知らせする予定です。

本事例研究会では、製薬協会員に限定せず、行政・業界に対しても幅広く受講者を募集いたしますので、多数のご参加をお待ちしております。

◆日 時：2022年9月9日（金）13時～17時（Webセミナーの形式で実施いたします）

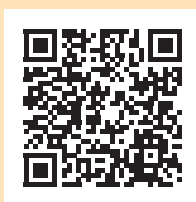
〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

「JAPIC NEWS」はホームページからも閲覧出来ます！

本誌『JAPIC NEWS』は、電子媒体（PDFファイル）として、
2004年4月号から最新号までを下記ホームページ上で公開しております。

JAPIC NEWS PDF版 掲載サイト

https://www.japic.or.jp/service/whats_new/japicnews/index.php
（下のQRコードからもアクセス可能です）



会員の皆様へは毎月冊子体をお届けしておりますが、テレワークの拡大等により電子媒体での閲覧可否のお問い合わせを頂戴しておりますことから、改めてご案内させて頂きました。

また近々、トップページからダイレクトに掲載サイトに遷移出来るよう、トップページの改修を予定しております。是非ご活用下さい。

くすりの散歩道

NO.147

赤チン

(一財)日本医薬情報センター 事務局 渉外担当

小山 政子 Koyama Masako

家族でテレビを見ているときだったでしょうか「ところで、赤チンって知っている?」と娘に聞いたところ「何、それ?」と言われたので「赤い消毒液、こどもの膝には赤チンが定番」、「えー、覚えがないなあ、マキロンは赤くないよ」との返事。

そういえば最近見ていないような気がする、と思いちよと調べてみました。

まずは『一般薬 日本医薬品集』第1版(昭和53年1月発行)、昭和49年末から昭和52年末までに入手した添付文書を主な情報源として編集したものの、外用殺菌消毒剤の欄に商品名に赤チンが含まれている製品が14品目掲載されていました。組成はほぼマーキュロクロム2%、剤形は液体、軟膏が2製品ありました。適応は擦傷、切傷が主ですが、とびひ、火傷、水虫と記載されているものもあります。メジャーな製品だったようです。

かなり昔からある薬のようなので、図書館所蔵では最古の『第三改正日本準薬局方 増補版』1948年、準がついているので薬局方との違いがよくわからないのですが、日本薬学会編となっています。「マーキュロ液」マーキュロクロム2.0、蒸留水98.0、適用は消毒液として掲載されています。製品として販売されたのがいつからなのか確認できませんが、昔から使われていたのは間違いのないと思います。

これ以上の資料が手元にないのでインターネットの力を借りることにしました。「FNNプライムオンライン「赤チン」最後の1社が製造終了…約70年作り続けた三栄製薬・社長に“思い”を聞いた2020年12月25日」の記事が見つかりましたので、以下、一部紹介させていただきます。

- ・戦前は67社が製造していたが2019年5月には製造メーカーはわずか1社
- ・三栄製薬は創業時の1953年から「赤チン」を製造、12月24日に最後の製造(中身の水溶液)、25日に最後の包装工程を行い、これをもって全ての製造が終了
- ・赤チンは1919年アメリカのジョンズ・ホプキンス大学の化学者などによって創製された殺菌



消毒薬

- ・1939年(昭和14年)に日本薬局方に収載
- ・チンの由来は、「チンキ」というアルコール製剤だが、アルコールは入っておらずヨーチンの代わりの俗称として使われた
- ・ヨーチンと比べて傷口にしみない、効き目が穏やかで長時間持続するため広く流通
- ・2019年5月に日本薬局方から外れ資材の再作成が必要となり他社が製造を終了

三栄製薬が製造を終了した理由は1970年代の水銀による環境汚染問題に風評被害が重なり、1971年に白チン(マキロン)が発売され人気落ちてきた。2017年8月に発効された水銀を使用した製品の製造、輸出入を規制する国際条約により、原料が輸入できなくなったことなど、とのこと。

『一般薬 日本医薬品集』平成15年7月発行には1製品のみ、平成18年8月発行ではマーキュロクロム液の掲載はあるが赤チンは掲載されていませんでした。

ご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、製造が終了されたためだったのですね。

参考文献:

FNNプライムオンライン「赤チン」最後の1社が製造終了
<https://www.fnn.jp/articles/-/124463>

内藤くすり博物館<その19>医薬品 いつもこどもの膝小僧に
 マーキュロクロム
http://www.eisai.co.jp/museum/information/topics/topics14_19.html

日本薬学会編、第三改正日本準薬局方 1948、221p



外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2022年6月1日～6月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.855-859) の記事から抜粋

■米FDA

- 緊急の自主的リコール: CorneaGen Cornea/Cornea Patch Grafts; CorneaGen, Corneal Patch Graft (製品番号: W419221004861104; W419221004861105; W419221004861106; W419221004861103) を自主的リコール
<<https://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/recalls-biologics/urgent-voluntary-recall-corneagen-cornea-cornea-patch-grafts-corneagen-voluntarily-recalling-corneal>>
- Class I Recall: Abbott Medical, 緩いカテーテルマーカースバンドが患者を傷つけるおそれがあるため, Dragonfly OpStar Imaging Catheterをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/abbott-medical-recalls-dragonfly-opstar-imaging-catheter-potential-loose-catheter-marker-band-may>>
- Class I Recall: ArjoHuntleigh Polska, バッテリーが消耗した状態でリフトを使用した際に発煙または発火のリスクがあるため, Sara Plus Floor Liftをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/arjohuntleigh-polska-recalls-sara-plus-floor-lift-risk-smoke-or-fire-when-lift-used-depleted-battery>>
- Class I Recall: Atrium Medical Corporation, 潜在的なバルーンもしくはカテーテル・ハブの分離が患者への害を引き起こす可能性があるため, iCast Covered Stentをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/atrium-medical-corporation-recalls-icast-covered-stent-potential-balloon-or-catheter-hub-separation>>
- Class I Recall: Philips Respironics, アラームの有無に関わらず人工呼吸器が動作を停止する原因となる可能性となる電源の問題について, 全てのV60およびV60 Plus人工呼吸器をリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/philips-respironics-recalls-all-v60-and-v60-plus-ventilators-power-issue-may-cause-ventilator-stop>>
- Class I recall: Medtronic, ポンプの溶接部欠陥のため, HVAD Pump Implant Kitsをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-recalls-hvad-pump-implant-kit-pump-weld-defect>>
- Class I Recall: Draeger, Inc, 患者への酸素の供給を妨げるおそれのある閉塞の可能性のため, SafeStar 55 Breathing System Filterをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/draeger-inc-recalls-safestar-55-breathing-system-filters-possible-obstructions-may-block-oxygen-flow>>
- Class I Recall: Baxter Healthcare Corporation, 在宅使用中の人工呼吸器を装着した患者の呼吸窮迫のリスクのため, Volaraシステムをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/baxter-healthcare-corporation-recalls-volara-system-risk-respiratory-distress-ventilated-patients>>

■カナダHealth Canada

- Summary Safety Review—Valacyclovir (valaciclovir) 含有製品—好酸球増加と全身症状を伴う薬物反応の潜在的リスクの評価
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00284>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC): Ocaliva▼ (obeticholic acid): 非代償性肝硬変の患者または肝代償不全の既往のある患者の原発性胆汁性胆管炎 (PCB) 治療に対する新たな禁忌
<https://www.ema.europa.eu/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-ocaliva-obeticholic-acid-new-contraindication_en.pdf>
- Direct healthcare professional communication (DHPC): Defitelio (defibrotide): 造血幹細胞移植 (HSCT) 後の静脈閉塞性疾患 (VOD) の予防に使用してはならない
<https://www.ema.europa.eu/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-defitelio-defibrotide-do-not-use-prophylaxis-veno_en.pdf>
- Direct healthcare professional communication (DHPC): dexmedetomidine: 65歳以下の集中治療室 (ICU) 患者における死亡リスクの増加
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-dexmedetomidine-increased-risk-mortality-intensive_en.pdf>

■英MHRA

- metforminとvitamin B12レベルの低下: リスクのある患者を監視するための新しいアドバイス
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/metformin-and-reduced-vitamin-b12-levels-new-advice-for-monitoring-patients-at-risk>>

■豪TGA

- 抗てんかん薬—妊婦および妊娠可能な女性に対する注意の更新: Medicines Safety Update
<<https://www.tga.gov.au/publication-issue/antiepileptic-medicines-updated-precautions-pregnancy-and-women-childbearing-potential>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://tech.libblabo.jp:53081/blabo/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書 名	著 者	出版者	出版年月
Rote Liste 2022	Rote Liste Service GmbH	Rote Liste Service GmbH	2022年
CPS 2022: Drug Information	Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2022年

情報提供一覧

2022年7月1日～7月31日提供

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free https://database.japic.or.jp/	
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2022年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. JAPIC 「医療用・一般用医薬品集インストール版 2022年7月版」	7月22日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. JAPIC 「OTC医薬品CD-ROM 2022年7月版」	7月21日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC NEWS」 No.459 2022年8月号	7月29日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 https://database.japic.or.jp/	
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジュー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>



赤ジャピ50年の伝統を守り
薬剤師を中心とした
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2022年9月
発刊予定



Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

本書の特長

- ◆2022年6月後発品まで収載
- ◆約50年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします！
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供（要登録）
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作（ケース入り）

14,300円(税込) B5判 約4,400頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データおよび病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

しゃぐまゆり

「赤熊百合」と書く。別名:トーチリリー、オオトリトマ。学名: Kniphofia uvaria (L.) Oken. 英名: torch lily. つるばらん科しゃぐまゆり属。多年性草本。南アフリカ原産、明治時代中頃に渡来、観賞用に花壇等に栽培。今では畑地などに自生。花期は6月~10月、茎の先端部に赤~朱、黄色等の花を付ける。花後に種子(蒴果)を付ける。Anthraquinone類(抗酸化活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。